

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所さくら		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 19日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 12日		2025年 2月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所では、雨の日でも子供が活動を楽しめるよう室内のスペースを適切に確保し、テラスや畑などの多様な場所を活用することで、子供たちの満足度を高めています。活動内容に合わせてスペースを柔軟に調整する工夫が見られます。	活動プログラムが季節や地域イベントを活かした内容になっており、こどもたちが楽しみながら多様な体験をする機会が提供されています。	支援ガイドラインを再確認し、保護者と職員間での計画共有を強化することで、提供する支援の質を向上させる取り組みが必要です。
2	職員配置は適切であり、子供たちに対してきめ細やかな配慮が行き届いています。また、支援計画に基づく専門的な対応が行われていることが保護者からも高く評価されています。	保護者との意思疎通を図るため、LINEやSNSを通じて活動概要や状況を伝える取り組みが行われています。これにより、保護者との関係性を強化しています。	交流会の開催日程をより柔軟にし、土曜日やオンライン形式を導入することで、多忙な保護者が参加しやすい環境を整えることが期待されます。
3	保護者の意見を反映し、こどもの特性に応じた支援計画を作成する仕組みが整っています。計画はモニタリングで定期的に見直され、保護者との連携の質を高めています。	家族交流会や兄弟向けイベントなどが企画されており、保護者や家族間の交流を促進しています。これらの活動は、保護者同士の情報交換を容易にするだけでなく、家族間の絆を深める効果もあります。	トイレの清潔さや異臭対策をさらに強化し、こどもたちが快適に過ごせる生活空間を提供する取り組みを充実させる必要があります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一部の保護者が情報発信を見逃している可能性があり、ホームページやSNSの活用方法の改善が必要です。	家族交流会や研修への参加が難しい保護者がいるため、参加促進のための日程調整や案内強化が必要です。	緊急時対応マニュアルや訓練内容を全ての関係者に分かりやすく説明し、事前の理解を深めることが重要です。
2	事故防止や緊急時の対応に関する情報が十分に周知されていないと感じる保護者がいるため、説明や訓練の頻度を増やす必要があります。	施設的环境や条件の変化に適応する体制が不足している場合があります。これにより、子供たちへの支援が制限される恐れがあります。	職員間での情報共有を徹底し、支援計画の実施状況を振り返ることで、計画の内容を柔軟に改善していく取り組みを進める必要があります。
3	利用者数が増加した際、活動スペースが手狭に感じられる可能性があり、さらなる空間確保の検討が課題として挙げられています。	職員間での情報共有が頻度や質の面でばらつきがある場合があります。これが統一的な対応を妨げる要因となっています。	保護者が活動内容や緊急時対応について簡単にアクセスできるように、情報発信の頻度や方法を見直し、より親しみやすいツールを活用することが求められます。